

## 複合死因データを用いた糖尿病と関連死因の人口学的分析

### A Demographic Analysis of Relationship between Diabetes and Other Causes of Death: Using Multiple Causes of Death Data in Japan

別府志海<sup>1</sup>・石井太<sup>2</sup>・林玲子<sup>1</sup>・篠原恵美子<sup>3</sup>

(1. 国立社会保障・人口問題研究所, 2. 慶應義塾大学, 3. 東京大学)

Motomi Beppu<sup>1</sup>, Futoshi Ishii<sup>2</sup>, Reiko Hayashi<sup>1</sup> and Emiko Shinohara<sup>2</sup>

(1. National Institute of Population and Social Security Research,

2. Keio University, 3. Univ. of Tokyo)

beppu-motomi@ipss.go.jp

日本の死亡統計である『人口動態統計』は、自治体に提出される死亡届を元に調査票が作成される。この死亡届は右側半分が死亡診断書もしくは死体検案書となっており、医師が死因など死亡時の状況について記入する。人口動態調査は、市区町村の窓口に提出される死亡届、および死亡診断書もしくは死体検案書（以下、死亡診断書等）をもとに、市区町村によって記入された調査票に基づく。

死亡診断書等の死因欄は、大きくⅠ欄とⅡ欄があり、Ⅰ欄は「最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番」で4つまで記載できる。またⅡ欄は「直接には死因に関係しないがⅠ欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等」を記載する欄である。したがって、死因として記載される欄は全部で5欄ある。

『人口動態統計』では、WHOが掲げている原死因（underlying cause of death）の考え方を採用している。しかし他方において、現代のいわゆる生活習慣病が大勢となり、一人がいくつもの疾病を同時に罹患していることが珍しくなくなっている社会においては、死因を一つに限定することで疾病間の関連など逆に見えなくなる情報も存在する。例えば糖尿病は合併症を引き起こすことが知られているが、原死因からでは、その人がどういった合併症を併発したのかは分からなくなる。

本報告では合併症を引き起こす疾患でもある糖尿病に焦点を当て、糖尿病の有病者がどういった死因で亡くなっているかなど他の死因間の関連について分析結果を示す。